

令和3年度学輪 IIDA 全体会 パネルディスカッション

つながること、学びあうことの可能性

～コロナから再興し、私たちの地域の未来を創る～

飯田は今、大きな時代の変化の真っ只中にある。また、そこに拍車をかけるように押し寄せた新型コロナウイルスは、くらしの様々な場面の様子を一変させた。未曾有の変化に直面し、社会全体の先行きが不透明な時代を生きる私たちは、これらの困難をどのように乗り越えていけばいいのか。このセッションでは、コロナ禍という社会変化における様々な実践を捉えながら、リニア開通や2050年の地域の姿も見据えたこれからの地域社会の在り方や、知のネットワークの可能性について、学輪 IIDA メンバーと地元実践者がともに考える。

【コーディネーター】

○草郷 孝好 氏（関西大学社会学部教授）

愛知県岡崎市出身。ウェルビーイングを大切にする循環型共生社会に関する研究と協働型アクションリサーチに力を入れ、地域社会の当事者である市民主導の内発的地域コミュニティ創りに関わってきている。長久手市、長岡市川口、兵庫県但馬地域、朝来市、ブータン、ネパールなどで活動。飯田市の市民と行政の連携や協働活動に強い関心を持っている。主な著書に「GNH（国民総幸福）」（海象社）、「市民自治の育て方：協働型アクションリサーチの理論と実践」（関大出版部）などがある。

【パネリスト】

○阿部 治 氏（立教大学名誉教授）

新潟県南魚沼市出身。筑波大・埼玉大・立教大等を経て、2021年より立教大名誉教授。日本における環境教育・ESDの先駆者として、国内外における環境教育・ESD（持続可能な開発のための教育）の推進を主導し、日本自然保護大賞沼田眞賞等を受賞。さらに日本初のESD研究所を2007年に立教大学に設立し、「ESDによる地域創生」を全国の自治体と連携し、推進。飯田市とは2017年に同連携協定を締結。以降、プロジェクトチームを組織し、主に遠山郷をフィールドに取り組んでいる。

○宮田 浩司 氏（飯田市南信濃公民館主事）

飯田市上村出身。飯田市役所に就職し、現在は南信濃地区で公民館主事を務める。南アルプスの麓で古くからの民俗芸能が伝わる遠山郷で、故郷への誇りと愛着を育む地域学習や、学校と地域が一体となった地域の魅力づくりなど遠山郷の特徴を活かした学習交流活動を、地域の多彩な人々とともに展開している。自身も上村の一住民として地域に暮らし、地域を担う若者の一人として活躍している。

○福田 真澄 氏（飯田女子高校教諭）

飯田女子高校でキャリア教育を担当し、2019年に同高校に新設された探究コース「Eクラス」を担当。高校生が自ら課題を発見し、興味関心を持って探究していくための環境づくりに積極的に取り組み、地域の現場をフィールドとした調査研究や産業界と連携した取組、「地域の変な大人50人に出会うプロジェクト」、学輪 IIDA の高大連携フィールドスタディへの関わりなど、高校の枠を越えた活動を展開し、次代の地域・社会の担い手育成に尽力している。

○四方 圭一郎 氏（飯田市美術博物館学芸員）

飯田市美術博物館で自然分野（生物）を担当。専門は昆虫だが、小さな博物館ゆえ動物も植物も一人で担当しながら、南アルプスなど地域の自然の魅力を顕在化させるべく日々奮闘中。蛾やコケなどを、身近で地味な生き物たちの美しさや面白さを伝え、「見えなかったもの」が「見えるようになる」楽しさを共有するため、園児からシニアまで幅広い層をターゲットとした普及活動を展開している。